



看護学教育研究共同利用拠点
看護学研究院附属
看護実践・教育・研究共創センター

Collaborative Center for Development of Nursing Practice,
Education and Research

新たな看護の役割に即した看護学教育の変革に向けて

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター長 かずみ よしこ
和住 淑子



あらゆる分野でこれまでのしくみや制度を覆すような深淵かつ広域な変化に直面する中、教育においても、分野を問わず、教育の目標や方法を根本的に見直す動きが始まっています。看護をとりまくヘルスケア分野においても、次々にイノベーションが生まれ、医療・介護をとりまく環境は激変しています。

第6期科学技術・イノベーション基本計画では、「社会や自然との共生のための循環型社会の実現、信頼に基づく市民感覚、三方よしの社会通念、分かち合いの共感性、こうした『ソフトパワー』の価値を、信頼性の高い科学研究や技術力、さらには極めて質の高い社会データの存在と結び付け、Society5.0を我が国の未来社会像として世界に問いかける。」と述べられており、個人・社会のwell-beingの実現に向けて、新たな看護の役割発揮への期待が高まっています。

新たな看護の役割に即した看護学教育の変革の方向性を探るため、今年度、当センターでは、「看護におけるイノベーションが可能な人材育成にむけた教育の方向性を探る」というテーマで看護学教育シンポジウム+webセミナーを開催いたしました。600名を超える方々のご参加をいただき、看護はイノベーションをやりやすい領域であり、看護学教育を本当に私たちがやりたいものにしていくことが、イノベティブな人材育成になっていく、ということを再確認できました。まずは、300校まで増えている看護系大学の教員個々が、私は何がしたいかと問うて、それを恐れず出してみることが大切なのではないか、と思いました。

今後は、新たな看護の役割に即した看護学教育の変革をさらに推進するため、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」として看護系大学教員の能力開発を体系的に目指す新たな研修事業を展開する予定です。皆様の益々のご活用をよろしくお願いいたします。

なお、今年度、当センターは、看護学分野唯一の文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点として4期目を迎えることができました。これは、これまで当センターを利用してくださった8,000名以上の全国の看護職者の皆様との協働なくしては成しえなかった成果であり、深く感謝申し上げます。

当センターでは、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- ・FDマザーマップ・支援データベース（看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース）
- ・組織変革型看護職育成支援データベース（教育－研究－実践をつなぐデータベース）
- ・課題解決プロセスデータベース（作成中）

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学) 拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、kango-cqi@chiba-u.jpまでお申し込みください。



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点

当センターでは、今年度から、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」事業に取り組んでいます。

この事業は、環境変化に創造的に適応する看護職育成を実現する先進的・体系的FDプログラムの提供と大学間共同利用システム構築を通して、看護系大学の次世代育成力（①環境変化を分析する力、②環境変化に適応する力、③教育内容を変革する力、④主体的学びを促進する力、の4つの力が統合された力）を強化することを目的としています。

医療・介護分野の急激なテクノロジーの進歩に伴い、次世代の看護職には、テクノロジーを活用することで患者一人一人が多様な力を発揮できるように支援し、個人および社会のwell-beingの実現に貢献するなど、これまでになかった役割の発揮が求められています。令和5年4月現在300課程を数えるまでに増加した看護系大学の現行のFDは、急激な環境変化に追いついていないといえず、各大学内での次世代育成力の伝授・継承には限界があります。

本事業は、看護学分野唯一の文部科学大臣認定「教育関係共同利用拠点」として、社会の変化とそれが看護学教育および看護実践に及ぼす影響をいち早く調査研究し、全国の看護系大学が社会の期待に応えられるよう先導する、看護学教育のフロントランナーの役割を果たしてきた当センターの資源と実績を最大限に活用して、看護系大学教員を目指す大学院生から管理的立場にある看護系大学教員まで、あらゆる立場にある看護系大学教員のFDニーズに応える5段階のレベル別体系的FD研修を提供し、大学間共同利用システムの構築により、我が国全体の看護系大学の次世代育成力を重層的に強化する先進的取組です。新規の研修事業は、令和6年度より受講者の募集を開始する予定です。ふるってご応募ください。

次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点

看護系大学教員の次世代育成力を重層的に強化する先進的・体系的FDプログラム

医療・介護分野の急激なテクノロジーの進歩 → 多様な力をテクノロジーと結び付け個人・社会のwell-beingを実現する看護の新たな役割



千葉大学看護学研究院および附属看護実践・教育・研究共創センターの資源と実績

- 2020- 「"Society5.0看護"創出拠点」⇒看護職の新たな役割発揮の方向性をFD研修により全国の看護系大学と共有
- 2016- 「看護学教育の継続的質改善(GQI)モデルの開発と活用促進」⇒各看護系大学の教育質改善のFD 次世代育成力強化に向けた自大学内FD充実
- 2011- 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」⇒FDマザーマップの公表・利用FD デジタル教材・看護AI開発に必要な人的・物的環境
- 2010- 「教育-研究-実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」⇒医療現場との連携実績の向上
- 1982- センター設置全国向け研修開始
- 1975- 国立大学唯一の看護学部 3,600名の卒業生を輩出 多くが全国の大学教員 先進的教育・研究により我が国の看護学教育を先導、看護先進・体系的FDの実施

課題解決型研修

—看護系大学教員向け・看護管理者および中堅看護師向け—

2021年度に当センターの研修事業は、従来の形態を抜本的に見直し、看護系大学教員向けと、看護管理者および中堅看護師向けに区分した「課題解決型研修」として集約しました。本研修は、解決困難な組織課題を有する受講生が5人ほどのグループを形成し、およそ2か月に1回、計5回のグループミーティングを行うプログラムです。研修では利害関係のない受講生同士が心理的安全性の保たれたオンライン環境のもと、自身の組織課題について発表し、グループメンバーから共感や助言、フィードバックを得ながら組織課題を多角的・俯瞰的に捉え直し、自明となっている自組織の状況や複雑な組織課題の構造化と言語化を深める相互刺激・相互支援である『ピア・コンサルテーション』を行います。従来の知識提供型研修ではなく、受講生が主体となった「出力型研修」としてリニューアルし3年目となります。

様々な社会変化や山積する組織課題に直面しながらも、根本的な組織課題の解決に向けた自己啓発や準備のための時間がない多忙な現場の方々のニーズに合致した研修形態として、「移動がなく、楽に勤務調整できる参加しやすい研修」との声をいただいています。今年も看護系大学教員36人、看護管理者および中堅看護師65人と、昨年を上回る多くの方にご参加いただけました。

今回、昨年度（令和4年度）の受講生を対象とした研修前後の自己評価を用いた研修評価を行いましたので簡単にお伝えします。

看護系大学教員の受講生は、看護系大学教員に求められる能力（FDマザーマップ®）の運営区分の「組織文化の創造」要素において自己評価の到達度が研修前より研修後が有意に高くなっていました。組織文化は、組織に所属していると当たり前と感じることで気づきにくく、また、気づいても変化・創造することに戸惑いを感じやすいです。そのため、組織文化の創造は自組織内FDではなかなか達成しづらい能力であり、本研修での利害関係なく相互に刺激し支援し合う機会が有効だと考えられます。

看護管理者および中堅看護師向け研修評価は、看護管理者のコンピテンシーを用いて、研修前後の自己評価を調査し、研修に対する学習ニーズおよび、どのような能力向上に資することができるかの観点から分析を行いました。研修は、研修前の自己評価が低く、受講生の学習ニーズが高いコンピテンシー（4項目）の中の「分析的思考」「概念化」「育成力」の能力向上に変化が認められましたが、「改革力」は変化がありませんでした。今後は「改革力」の能力向上に資する研修への発展を課題とし取り組んで参ります。

（こちらは、2023年12月開催の第43回日本看護科学学会学術集会にて発表しました。）

次年度は大学教員向けFDの体系化を進める大きな事業計画の準備を進めております。今後も充実した研修事業の革新を図る予定でありますので、ホームページを通して随時、詳細についてご案内していきます。ご興味のある方は是非ホームページをご覧ください。



43. 日本看護科学学会学術集会

演題番号：023-4

看護管理者および中堅看護師を対象としたオンラインによる課題解決型研修の評価
～研修前後の自己評価より～

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践・教育・研究共創センター
高木夏恵、飯野理恵、池崎澄江、和住淑子、黒田久美子、齊藤しのぶ、
錢 淑君、仲井あや、中山登志子、真嶋朋子

看護学教育研究共創利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践・教育・研究共創センター

43. 日本看護科学学会学術集会

演題番号：06-2

看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果
～看護系大学教員としての能力の変化より～

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践・教育・研究共創センター
飯野理恵、高木夏恵、池崎澄江、和住淑子、黒田久美子、
齊藤しのぶ、錢淑君、仲井あや、真嶋朋子、中山登志子

看護学教育研究共創利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践・教育・研究共創センター

看護学教育シンポジウム+ web セミナー

社会の変化は激しく、大学には、個々の大学のミッションをふまえて、社会の変革やイノベーションが可能な人材育成が一層求められています。本年度は、それをさらに探求することをねらいとし、「看護におけるイノベーションが可能な人材育成にむけた教育の方向性を探る」をテーマとしました。今回、基調講演、webセミナー、シンポジストの講演内容を全てオンデマンドにし、参加者各自が関心ある内容を繰り返し視聴できる形式にしたことも初めての試みでした。本ニュースレター作成時点で、申込者数は696名であり、テーマに関する看護学教員等の関心の高さをあらためて実感しています。

各講演、全体討議、セミナーでは、貴重なご経験と今後のイノベーション人材育成を考える上で示唆に富むご意見を伝えて下さった先生方に変感謝申し上げます。

本センターは、本年、あらためて看護学分野唯一の教育関係共同利用拠点として文部科学大臣認定をうけ、今後、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」としての事業を推進する予定です。本シンポジウムの成果を生かして、全国の看護系大学と次世代の看護系人材の教育を共創していきたいと考えております。



基調講演

「学士課程教育における現代社会で求められている課題とは何か？：大学基準協会調査結果をベースに」：

同志社大学教授 山田礼子先生

シンポジウム

「看護系大学における社会の変革やイノベーションが可能な人材育成とその方法の検討に向けて、多角的な観点から新たな発想を得る」：

名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター看護キャリア支援室室長・教授 秋山智弥先生
国立看護大学校生命科学教授 本間典子先生
合同会社プラスぽぽぽ代表 榎原千秋先生

webセミナー

「変革を起こす力のあるコンピテンシー～OECD Learning Compass2030より～」：

函館工業高等専門学校一般系教授、岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性STEAM教育開発センター協力教員、早稲田大学情報教育研究所招聘研究員 下郡啓夫先生

「看護系大学の教育に関する動向」：

文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 渡邊美和先生

着任のご挨拶

特任教授 **しまだ ようこ**
島田 陽子



島田陽子と申します。2022年3月まで厚生労働省に勤務しておりましたが、ご縁をいただき2022年10月に特任教授として着任しました。

看護実践・教育・研究共創センターには、厚生労働省勤務時に運営協議会委員として関わらせていただいた経験があり、センターが看護教育行政と連携しながら様々な先駆的な事業に取り組み、全国の看護系大学における看護学教育の質向上に貢献してきていることに感銘を受け、また行政の立場としてもセンターの役割の重要性を痛感しておりました。

現在、センターは文部科学省より看護学教育研究共同利用拠点の認定を受けており、看護学で唯一の拠点として、看護学教育の充実・向上に向けて重要な役割を果たすことが一層期待されています。このようなセンターの役割の重要性を踏まえ、私自身のこれまでの経験を活かして、さらなるセンターの取り組みの推進に尽力したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学教育研究共同利用拠点

発行

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 URL : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>
TEL : 043-226-2464・2377 総務第三係(センター研修担当) E-mail : kango-cqi@chiba-u.jp